

目次

第1部 分野別編

1 文学的文章の読解①（物語）……………4

- 有島武郎「一房の葡萄」
- 加納朋子「少女少女飛行俱樂部」
- 上岡伸雄「この風にトライ」

2 文学的文章の読解②（随筆）……………16

- 星野道夫「旅をする木」
- なだいなだ「このころのかたち」
- 五木寛之「生きるヒント1」

3 説明的文章の読解①……………28

- 外山滋比古「思考の整理学」
- 金田一春彦「日本語を反省してみませんか」
- 齋藤孝「読書力」

4 説明的文章の読解②……………40

- 今泉吉晴「空中モグラあらわる」
- 八太昭道「こみから地球を考える」
- 中谷宇吉郎「雪は天からの手紙」

5 詩・短歌・俳句……………52

- 村野四郎「飛込」
- 室生犀星「二つの心」
- 吉野弘「漢字喜遊曲——王と正と武」
- 牟礼慶子「ことばの冠」
- 俵万智「思い出の一つのようでそのままにしておく麦わら帽子のへこみ」
- 俵万智「待つことの始まり示す色をして今日も直立不動のポスト」
- 俵万智「真夏日に雪という字と火という字浄書している教室の隅」
- 俵万智「消しゴムを八十円で新調す 時計のベルト変えて二学期」
- 俵万智「なんでもない会話なんでもない笑顔なんでもないからふるさとが好き」
- 俵万智「白猫と目が合っている路地の裏 時の割れ目と思う下町」
- 斎藤史「野に捨てた黒い手袋も起きあがり指指に黄な花咲かせたす」
- 前田夕暮「向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ」
- 木下利玄「遠足の小学生徒有頂天に大手ふりふり往来とほる」
- 北原白秋「石崖に子ども七人腰かけて河豚を釣り居り夕焼小焼」
- 浜田康敬「兄弟は仲よくあそび空に揚げし風になにかをさせているなり」
- 光孝天皇「君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ」
- 文屋康秀「吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ」
- 源宗千「山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば」
- 藤原家隆「風そよぐならの小川の夕暮れはみそぎぞ夏のしるしなりける」
- 桂信子「雪たのしわれにたてがみあればなほ」
- 鈴木真砂女「人あまた泳がせて海笑ひけり」

第2部 実戦演習編

● 後藤夜半「滝の上に水現はれて落ちにけり」	
● 夏目漱石「名はさくらものの見事に散ることよ」	
● 与謝蕪村「山は暮れて野はたそがれのすすきかな」	
● 与謝蕪村「山暮れてもみじの朱を奪いけり」	
● 谷木因「しほるほどぬれてしだるるやなぎかな」	
● 正岡子規「紫のふつとふくらむききょうかな」	
● 正岡子規「うつむいて何を思案のゆりの花」	
● 小林一茶「うめ咲けどうぐいす鳴けどひとりかな」	
● 山口誓子「ピストルがプールの硬き面にひびき」	
● 小林一茶「われと来てあそべや親のなはずめ」	
● 松尾芭蕉「五月雨を集めて早し最上川」	
● 小林一茶「名月をとってくれろと泣く子かな」	
● 松尾芭蕉「夏草や兵どもが夢の跡」	
6 漢字・ことば64	
7 ことばのきまり76	
● 島崎藤村「幸福」	
● 加藤周一「日本語を考える」	
8 表現・文学史86	
● 芥川龍之介「蜘蛛の糸」	

1 実戦演習 総合問題①96	
● 森本哲郎「ことばへの旅4」	
● 八束澄子「海で見つけたこと」	
● 木下利玄「街をゆき子供の傍を通る時蜜柑の香せり冬がまた来る」	
● 石垣りん「行く」	
2 実戦演習 総合問題②108	
● 保坂和志「老いることに抗わない」	
● 井上ひさし「大きな広場」	
3 実戦演習 総合問題③120	
● 井上ひさし「明くる朝の蟬」	
● 川端裕人「オランウータンに森を返す日」	
● 角田光代「ランドセル」	
4 実戦演習 総合問題④132	
● 福永武彦「退屈な少年」	
● 村瀬学「なぜ大人になれないのか」	
● 石垣りん「島」	

1

文学的文章の読解①（物語）

学習日

—

問

題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（函館ラ・サール中学校）

SAMPLE

〈有島武郎「二房の葡萄」より〉

□(1) ※ に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア そのうえ イ だから

ウ もちろん エ けれども

□(2) 線①「僕は出来るだけ行くまいとした」とありますが、その様子を表した次の語句の□に当てはまる漢字を一字で書いて答えなさい。

〈② あがき〉

□(3) 線②「泣き出してしまいました」とありますが、少年はなぜ泣きだしてしまったのですか。その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア クラスメイトの告げ口のせいで、絵具を盗んだことが本当かと先生に尋ねられることとなり、事実を自分の口から伝えなければならなくなったことが悔しかったから。

イ クラスメイトに連れられて入った先生の部屋で、じっと見つめてくる先生の眼差しから全てを見抜かれていることに気づき、反省して泣くしかなかったから。

ウ 絵具を盗んだという知られたくない事実について先生に尋ねられたのだが、今さら盗んでいないと嘘をつくわけにもいかず、返答に困ってしまったから。

エ クラスメイトだけではなく大好きな先生までもが自分に対して責めるような眼で見っていたので、辛さのあまり涙が止まらなくなったから。

□(4) 線③「生徒達は少し物足らなそうに」とありますが、生徒

たちが物足りなく思った理由としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

[illegible]

②

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(愛光中学校)

SAMPLE

SAMPLE

〈加納朋子「少年少女飛行俱樂部」より〉

(注) パワーバランス力関係。

リセットにもとにもどすこと。

□(1) — 線①「二人組」の怖さ」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 組を作る時に、組む相手が見つからなかったり、自分がだから必要とされていないことを思い知らされたりするのはないかという不安。

イ 組を作る時に、どうしても一緒にになりたい友だちがいるのに、その人がもしかすると自分のことを選んでくれないのではないかという恐怖。

ウ 組を作る時に、だれも自分を選んでくれる人がおらず、最後にはきらいな人といいや組まなくてはならないかもしれないという緊張。

エ 組を作る時に、いつも一緒にいてくれる人が先に声をかけた人と組んでしまって、自分一人だけ取り残されてしまうかもしれないという心配。

☐

□(2) — 線②「みんなくーちゃんとなら、二人組になりたいって

思ってる」とありますが、樹絵里がこのような発言するのは、

海月（くーちゃん）をどういう人だと思っているからですか。書いて説明しなさい。

--	--	--	--	--

□(3) — 線③「樹絵里はにっこりと、それはもう嬉しそうに笑った」とありますが、このときの樹絵里の気持ちの説明として最も

ふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分のことを海月はきらっているはずなのに、そのこと自体に今まで気づいていなかったというあわてた様子をほほえましく思う気持ち。

イ 自分のことを海月は重荷に感じているはずなのに、思った通り気づかいを示して、自分の言葉を打ち消そうとしてくれたことを喜ぶ気持ち。

ウ 自分のことを海月はうっとうしく思っているはずなのに、海月がクラスの中で自分をかばってくれたことを思い出して感謝する気持ち。

エ 自分のことを海月は仕方なく受け入れているはずなのに、ことさらそういう気持ちを表に出さないようにしていることに感激する気持ち。

☐

□
(4)

——線④「ヒトデナシでヨコシマな動機」とありますが、どう
いう点で「ヒトデナシ」で「ヨコシマ」なのですか。その説明と
して最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア クラスの中で気まづくなった原因をきらいな樹絵里のせいだ
と決めつけ、何とか逃げるために、樹絵里には知らせず急に中
学受験をすると言った点。

イ 勉強をするために中学受験を考えるべきなのに、女の子同士
の人間関係を清算するというたわいもない理由で中学受験をし
ようと考えた点。

ウ 樹絵里との関係をつらいと思うことがたびたびあったので、
その気持ちに素直に従って、樹絵里から離れて自分だけ違う中
学でやり直そうとした点。

エ 樹絵里さえいなければ自分はうまくやっていけると考え、樹
絵里のせいで気まづくなった人間関係を白紙にもどすために中
学受験をしようとした点。

□
(5)

——線⑤「私ってば、なんて恥ずかしいやつなんだろう。思い
上がってて独りよがりで、私こそ、ナニサマって感じ……」とあ
りますが、海月はどのような点を「恥ずかしい」と感じているの
ですか。樹絵里と比較して説明しなさい。

--	--	--

□
(6)

——線⑥「樹絵里こそ、ほんとの意味で優しいよ」とありま
すが、海月は樹絵里のどういう点を「優しい」と感じているので
か。「自分は、ゝのに対し、樹絵里はゝ点。」という形で、書いて
説明しなさい。

--	--	--	--	--	--

--	--	--

③

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(芝浦工業大学中学校)

SAMPLE

SAMPLE

〈上岡伸雄「この風にトライ」より〉

□(1) — 線①「ひとりだけ鬼のように怖い顔をしているやつがいた」とありますが、このときの「賢介」の気持ちの説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ラグビー大会の中止を自分のせいにされるのではないかと思
い、恐れている。

イ 校長先生がアッシーをやめさせようとしているのではない
かと思ひ、怒っている。

ウ ラグビー大会ができなくなってみんなが悲しむのではない
かと思ひ、恐れている。

エ 自分の母親のせいでラグビー大会ができなくなるのではない
かと思ひ、怒っている。



□(2) — 線②「アッシーのジャージを着た背中では実際以上にふくらんでいるみたいに見えた」とありますが、その理由の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ラグビー大会の意義を理解してもらえないことに対する悲し
みと、子どもたちの望みをかなえないという意欲に満ちてい
たから。

イ 一方的にラグビー大会の中止を押しつけた校長先生に対する
怒りと、教師をやめてしまおうとするなげやりの気持ちに満ち
ていたから。

ウ ラグビー大会をやめさせようとすることに対する怒りと、子
どもたちのために絶対に実現させようとする決意に満ちていた

エ ラグビー大会ができなくなることに對する悲しみと、教師として子どもたちを裏切りたくないという責任感に満ちていたから。

——線③「目だけはぎらぎら光っているように思えた」とありますが、このときの「賢介」の気持ちの説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア アッシーが学校をやめさせられてしまうことを悲しみ、今にも泣き出しそうになっている。

イ 自分たちが全員で力を合わせることで相沢とアッシーの問題は解決するだろうと思っている。

ウ アッシーにまかせておけば必ずラグビー大会を実現させてくれるだろうと信じている。

エ ラグビー大会とアッシーのことを自分自身の問題と考え、何とかしなければと必死になっている。

——線④「ぼくはなんだかますますムシヤクシヤしてきた」とありますが、その理由の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ラグビー大会が中止になりそうなうえに、自分が言ったことを弟がまったく理解していなかったから。

イ
ラグビー大会が中止になりそうなうえに、弟が自分のことを
ばかにしているように感じたから。

ウ ラグビー大会が中止になりそうなうえに、生意気な弟が自分
に対して反抗的な態度だったから。

エ
ラグビー大会が中止になりそうなうえに、自分が何を言いた
いのかが自分でも分からなかったから。

①に入る文として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 本当に情けないことだ。

イ
さぞ悔^{くや}しいだろう。

ウ　もう元気になっただらうか。

工
なんてつまらない人生だ。

②に入る最もふさわしいことばを本文中から六字で書きぬ

アッシーはラグビーを通して、子どもたちにどういうことを学んで欲しいと考えていますか。本文中のことはを用いて、五十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

[illegible]